

*篠山市内6カ所に調査定点を設置しています。

【生育】(平成30年10月15日篠山市定点調査結果より)

	全重(g)	主茎節数 (節)	一次 分枝数 (枝)	二次 分枝数 (枝)	稔実莢数 (莢)	稔実莢重 (g)
平成30年	1,500	16.8	7.6	2.2	130.9	441.1
平年(過去10カ年平均)	1,867	18.6	9.8	7.9	166.3	613.5
平年比	80%	90%	78%	28%	79%	72%
平成29年(参考)	2,326	17.9	9.8	6.4	198.2	824.3

- ・1株当たりの全重は1,500gで、平年に比べて80%と少なくなっています。
- ・7月上旬の集中豪雨による湿害や梅雨明け後の高温・乾燥等の影響により、主茎節数、一次分枝数は平年を下回っています。特に、二次分枝数は平年比28%と極めて低くなっています。
- ・8月下旬以降、降水量は台風等の影響により平年よりかなり多く、日照時間はかなり少なくなっています。また、倒伏や主茎・分枝の枝折れ等の物理的損傷も加わり、稔実莢数は平年比79%、稔実莢重は平年比72%となっています。
- ・ほ場による格差が平年に比べて大きく、稔実莢数が最大181莢、最小87.7莢であり、稔実莢重は最大591.2g、最小255.3gとなっています。

【今後の対応】

1 葉取り・刈り取り

- ①葉が青い状態での葉取りや刈り取りを行うと、登熟不足を招き、しわ豆の発生や、小粒化の原因になります。霜が降り、葉が十分に黄化してから行いましょう。
- ②今年度は、夏期の高温・乾燥等の影響を受け、ほ場ごとの着莢にバラツキがあります。特に、着莢が悪いほ場では、茎葉部が青く、葉の黄化や莢が熟すスピードが遅いため、ほ場ごとに観察を行い作業適期を判断してください。

2 乾燥・脱粒・仕上げ

- ①ほ場で稲架等^{はさ}にかけて予備乾燥を行う場合は、夕方から翌朝までビニールシート等で覆って雨や夜露を避け、翌朝、覆ったビニールシートを外し、乾燥を促します。
- ②機械乾燥の場合、水分含量が高い状態のものを急激に乾燥すると、しわやはく皮が多くなり、品質が低下します。乾燥機への投入は子実の水分が25%程度になってから行い、高温で急激に乾燥することは避けてください。
- ③子実の損傷を少なくするため、脱粒は子実水分20%以下で行いましょう。